

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 緑の風
(ユニット名)	くつろぎの家
所在地 (県・市町村名)	三重県津市河芸町東千里13-2
記入者名 (管理者)	星 歩
記入日	平成 20年 7月 3日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ホーム独自の理念は、スタッフ全員が理解し実践できるよう、「入居者主体」を基本とし、「笑顔で、優しい気持ちで、やさしい声かけ」と決めた。</p>	<p>○</p> <p>地域住民の方々へのグループホームへの理解を得て、入居者の今の状態にあった暮らしを考慮し、「どのようにして、地域とかかわれるか」を課題に日々取り組んでいきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日の朝礼の際、月1回のミーティング、普段のかかわりの中でも理念に基づき、自分たちはどうであるか話し合い、意識して理念の実践に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>業務に追われてしまったりで、理念や目標が忘れがちにならないように、普段からスタッフ全員が意識して努めていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族へ普段の散歩や外出への誘いの声かけをし、地域への参加の協力を得ている。 地域の方々へは、自治会や民生委員の方の見学を行っている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族には面会時、電話などでお話を通して、コミュニケーションを図り理念や役割について理解をしていただくよう努めていきたい。</p>
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の公園までの散歩やスーパーへの買い物に出掛けた際、道行く方々と挨拶を交わしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地元が開催する市場や、町民会館での催しがあるときに、入居者とお邪魔させてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>自治会に出席し、地域の方々との交流を通じてグループホームの存在と理解を得ていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受け入れをし、人材育成に貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で実施しており、具合的に問題点が分かり改善に向けてミーティングで話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への参加までの了解が難しく、参加メンバーが揃わず開催されていない。	○	参加メンバーの方々に運営推進会議の意義や役割を理解して、積極的に参加していただけるよう働きかけたい。運営推進会議開催に向けて早急に取り組みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定調査などで、市町村職員の方が見えた際には、現場の様子について話したりする機会を作っている。	○	市町村職員の勉強会などへの参加をし交流を図りたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	以前に、地域福祉権利擁護事業と成年後見人制度利用されている入居者がみえた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで虐待が起きないように、見過ごされないように現場の雰囲気作りや、スタッフ間の意識の統一に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの理念や細かなサービス内容の説明、将来のことも含めた話し合いを行い、それに伴う不安や疑問点について説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からの会話の中で、要望や意見をくみ取るよう心がけている。それで得た情報は反映されるよう、スタッフ間で共有し合っている。	○ 気軽な気持ちで意見・不満・苦情が言える施設の雰囲気を作っていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	大切な事柄は管理者が中心となり面接時や電話連絡で家族に対し報告している。また、スタッフ間は連絡ノートがあり、入居者・家族に対して統一した連絡・報告が出来るようにしている。	○ 面会時に入居者の日々の様子を伝えるとともに、家族の意見や不満・不安がないか問いかけるよう心がけていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、家族会議などで家族がスタッフに気軽に意見や不満を話せるような機会を作っていきたい。	○ 家族の不満や不安を話し安易よう、面会時にはできるだけコミュニケーションをとるよう管理者が中心に取り組んでいる。個別の対応も行っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見や提案など、発言しやすい雰囲気作りに努めている。個々の不満や苦情は個別に聞き、それをミーティングに反映させている。	○ 現場の意見、要望を報告・伝達して運営者に現状を理解してもらい、ホームの改善につなげていきたいと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出など楽しみ事への支援、夜間入浴など入居者のニーズや生活スタイルに合わせた勤務体制を作っている。	○ 入居者に満足した生活を保障し、入居者の状況変化に対応していくために、必要なスタッフを確保していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みのスタッフの退職・新しいスタッフが入る場合も、入居者にきちんと説明し対応している。	○ スタッフの入れ替わりを少なくし、馴染みのスタッフを増やしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回開催のグループホーム連絡協議会への参加を心がけている。研修報告書を提出しスタッフ全員が閲覧できるようにしている。	○ 全スタッフが研修などに参加できる勤務体制、スタッフ数を確保するよう努力したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の連絡協議会に加入しており、勉強会や講演会へ参加し、その内容をミーティングで話し合い、サービスの質の向上を心がけている。	○ 同業者との交流や情報交換などは重要だと思う。研修科も含めて積極的に取り組み、サービスの質の向上に努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフのストレスや悩みを把握するよう会話を心がけている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場へ定期的に来ており、スタッフと近況などの話を気軽に話している。年に一回、個別評価を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、もしくは申し込みの際は、必ず本人にも同席していただき、顔を合わせたコミュニケーションを心がけている。事前調査でも生活生活歴から、身体状況・精神状況の把握に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の際に、本人を前に話しがたいような家族の悩みや不安を聴くために、本人が席を外していただいている。その間は、スタッフと入居者と本人が交流し不安がないよう過ごせるよう気を配っている。	○ 介護されている家族の大変さを十分伺うようにして、そのことに対して、家族とスタッフと一緒に検討している雰囲気大切にしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に受けた相談は、法人内の判定会議の中で通所介護・ショートステイ・入居など、どのサービスが適切かそれぞれの部署の意見も交えた見極めに努めている。	○	本人、家族が困っている現状と、それぞれの希望をもとに、今必要なサービスは何なのかを本人、家族と一緒に検討して問題解決につなげていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	暮らす場所の変化に伴い、本人の不安や混乱、ストレスが少しでも軽減されるよう事前の情報収集に力を入れている(自宅への訪問・担当・ケアマネ、利用施設への聞き込み)。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは入居者を人生の先輩として敬意を表し、入居者同士が支え合い協力しそれぞれが役割を持ち暮らしている。女性を思いやる男性入居者の姿や言動に感心したり、スタッフに対し生き方を教えてくれたり、悩みを聴いてくださっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは「ご家庭の介護への協力」をホームの理念の一つとして話している。今までの暮らしぶりや、自宅での介護方法を教えていただき現場で良いアドバイスとなっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	訪問時にはお茶をお出しし、ゆっくりと話せる機会を作るようにしている。ホームでの活躍や楽しかったことなどの話題提供や、暮らしを伝える写真を見てもらい、和やかに時間を過ごしていただいている。	○	これまでの生活歴の情報収集を基に、相互の関係を把握しお互いを理解したうえで、よい関係が保てるように努めていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が暮らしていた場所に出かけたり、その町の現在の状態などを話している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ぶつかり合う関係良好な関係をスタッフ間で把握している。日常性かるのいろいろな場面で、入居者同士の関係を上手くいくようにスタッフが調整し支援している。	○	入居者同士の関係構築への側面的なサポートに努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去される際には、またホームへ気軽に来訪していただけるよう声をかけている。	○	退去された入居者や家族から相談があれば、柔軟に対応するよう心掛けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からの会話の中で、一人ひとりの思いを引き出せるよう心がけている。 それで得た情報は反映されるよう、スタッフ間で共有し話し合っている。	○	入居者、一人ひとりの希望や、日々の暮らしの中での思い出を、スタッフ全員が把握しつつ、日々の支援を行っていききたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にバックグラウンドの情報がいかに大切かを説明し、情報をいただいている。 その情報から、どのような効果があったかも伝えるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「いつもと違うな…。」こないだは、出来たのになぜ?」と入居者の変化に注目し、その原因を身体面・心理面から話し合えるよう努めている。	○	把握した情報を一人ひとりのケアの確実につなげていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回のケアプラン会議により、スタッフ全員でそれぞれの気づきを出し合い、より良い生活を提供できるよう話し合い作成している。	○	本人とご家族の思いがもっと具体的に反映されるよう、もっと話し合いの時間を作るなどして、家族がケアに参加しやすい介護計画を作成したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月に1度、書き換えている。 一時的であったり、急な状態の変化に対しては、毎日の申し送り、連絡ノートで、個々の入居者の変更した支援方法を話し、スタッフ全員が把握し、実際の介護に活かしている。	○	今後は、状況の変化によって直ちに介護サービス計画書が必要か否かの検討も考える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のカルテ記入の際には、スタッフ間で日々の様子やケアの状況の共有ができる内容であるよう心掛けている。	○	各個人のカルテ、スタッフ間の連絡ノートは、より良い介護計画を作成する上で重要な資料であり、これからも重視していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームの関連施設には老健があり、個々の入居者の心身の状況、家族の意向により、可能な限りその人にふさわしい暮らしができるよう、管理者が中心となり連携して支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館や、地域施設の催し物へ出掛け、また利用させていただけるよう、挨拶をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入退所の心身の状況変化により、他のサービスが必要となった場合、ふさわしいと思われるサービス事業者や、地域のケアマネジャーと話し合い、情報や資料を提供した例がある。	○	入居者、家族の方々の希望に沿うような、福祉サービス・事業所などの情報を提供し支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	以前、そのようなケースがあり、協議したことがあった。	○	運営推進会議を開催し、協力関係を築きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の意向を尊重しつつ、病状などによっては、必要な他の医療機関を受診できるよう配慮している。代表者が医師であり、週1回の往診があり常に医療を受けられる体制である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院中の状況や様子は、常にスタッフに報告している。その情報をもとに、ホームに戻ってからの生活が支障なくできるよう準備をしている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化、終末期について、当ホームはどこまで対応できるのか、どのように取り組み支援すべきかを、運営者・スタッフ間で検討し取り組んでいきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを傷つけないよう、目上の方という意識を持ち尊重しつつ、日々の声かけや対応には気を配っている。「相手の立場に立つ」を念頭に置き、日々の関わりの際にも、不快にならないよう配慮し対応している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの自己決定を基本とし、それぞれの感情も受け入れ、希望も聞き取りながら日々の支援を行っている。自己決定の難しい入居者には、より会話やマンツーマンの対応を増やし個々の興味を知るよう働きかけている。	○ 普段の会話の中でも、入居者の関心や嗜好を引き出し、本人が自由に希望を表したり、話せたりする雰囲気作りを心掛けていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先し、入居者のペースを大切に、日々の活動への参加も、その日の体調や気分を優先したうえで、状況をうかがいながら支援している。	○ スタッフ間で入居者の日々の暮らしを把握し、スタッフ間で情報や意見を交換し、それぞれの“その人らしい暮らし”を見極め対応していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容 美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔ながらの本人の趣味や馴染みの服など、好みなどを考慮しつつ、身だしなみを楽しんで頂いている。整容なども同様に、ご自分で出来る方にはご自分でして頂き、介助を要する方には介助をさせて頂いている。また、昔よりの行きつけの理髪店などある方には、そちらへ行って頂いている。	○ 「素敵ですね。似合いますね。」等の声掛けも、オシャレや身だしなみにも、楽しみが持てるよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備は、積極的に参加してもらっている。スタッフも一緒に同じ食事を食べることで、会話を楽しんだり、ゆっくと食事をする雰囲気が作り出されている。	○ 食事準備や片付けに関わることで、役割を持ち、自信回復や楽しみごとへと繋げていけるよう、今後も取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	普段のおやつでも、市販のもの以外にも、手作りのおやつを提供したりしている。お酒を飲まれる入居者については、家族に了承を得て、一度に飲む量も決めて飲んで頂いている。	○ 一人ひとりが嗜好品を楽しめ、日々の生活がより良いものになっていけるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンやサインの把握に努め、その都度の対応に当たっている。トイレ誘導の際にも、周囲に気づかれないよう配慮し声かけしている。	○	常に羞恥心に配慮し、汚染などあった際にも快く交換、清拭させていただきよう、スタッフ全員が意識し対応している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりとしたスペースにて、本人の入浴時間に合わせ介助している。曜日も特に決める事なくその日の体調を最優先している。入浴拒否がある時は、無理強いせず下着や衣類の交換、陰拭などをさせて頂いている。また、毎日の入浴希望者には希望通り入浴して頂いている。	○	入浴を楽しんで頂けるように季節の入浴(しょうぶ湯・ゆず湯)に加え、薬草風呂などの充実化を計りたい。試しに行った結果、好評だったので、楽しみながら安全な入浴を目指していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ゆったりとした気持ちで安眠できるよう、就寝前は温かい飲み物を飲んでいただいたり、一日の終わりにふさわしい時間の過ごし方ができるよう、雰囲気作りを大切にしている。	○	不穏により安眠が難しい入居者には、不安を取り除くことに重点を置き、安心されるよう声かけなどの対応に配慮している。今後も、そのような精神的な部分への働きかけに努めていきたい。
m				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が自ら興味を持たれ、行動を起こすことに関しては、出来る限り反対はせず、安全を第一に行って頂いている。普段の会話の中から、一人ひとりが得意とした事、楽しみごとだった事項等を聞き取り、日々の活動に取り入れている。	○	一人ひとりが生活歴からの経験と知恵を、ホーム内の日々の生活に取り入れながら支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は、事業所で預かっており、利用者個人で所持したり使えるようにしていない。	○	利用者が自分でほしいものを自分でお金を出して買う楽しみを作ったり、買い物を楽しめるような機会を支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、利用者の体調、気分に応じて外出している。四季の変化を感じることで記憶をよみがえらせ会話をする事により、健康維持・ストレスを蓄積しないようにしている。	○	高齢な為、車イスでも出掛けたがらない利用者に対してのアプローチが弱い。本人の体調、気持を聞きながら少ない外出のチャンスを見逃さず出掛けたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の行きたいという希望の多い場所(懐かしい場所)へは、計画を立て職員の勤務も調整したり、家族へお願いをし協力を得ながら支援している。	○	利用者の思いが実現できる様、職員同士で検討し、家族の協力も得られるよう、努力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者の希望に応じ、家族の意向も考慮し、電話などの支援を行っている。 話が聞こえなかったり、会話の理解が不十分にならないよう、特に家族に要件の電話の際は側に就くなり気を配っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気兼ねなくゆったりと過ごしていただけるように、スペースを設けている。また、久しぶりの訪問者など会話が弾むように写真やホーム便りなどで話題をもちかけたりしている。	○	来訪される方々に対して、スタッフは笑顔でゆったりとした態度で迎えられるよう心掛け、訪問者がゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアをスタッフ全員で振り返り、気がつかないうちに身体拘束が起きていないか話し合っている。	○	これからも入所者との信頼関係を大切に、絶対に身体拘束を避けていくよう努めていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない工夫として、玄関の出入りに注意し、出ていかれる可能性のある方の居場所を把握しリビングを離れる際は、他の職員に声を掛けることにしている。 現在は、離棟の恐れがある方がみえ、日中玄関に鍵をかけている。(家族の了承を得ている)	○	スタッフの意識が鍵をかけないことが当たり前にならないよう、入居者の状況もうかがいつつ、かけないで済むよう、対応に努めていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者の所在に注意し、職員同士声を掛け合っており、さりげなく利用者の動きに気を配り、小さなサインも見落とさないよう、利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じ、針道具が使える方、爪切りを持っていたい方には使っていただき、義歯洗浄剤などは職員が預かりその都度渡すようにしている。	○	針道具・爪入りも管理しきれなくなった場合は、こちらで預からなければならない時も来る。その見極めも慎重に行いたい。 数の管理は注意深く行っていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを各自必ず書き、職員間共有し、事故原因と今後の予防対策を早急に検討、実施している。	○	再度、ミーティングや研修などを通じて、各スタッフが理解し出来るよう徹底していく必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティング等で取り上げて、スタッフ間での訓練を行っている。	○	全スタッフが応急手当や初期対応の講習を受講できるよう、体制を早くとっていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の老健との協力は得られているが、地域の人々の協力体制は得られていない。	○	火災や地震などの災害時の対応・応急避難方法を身につけるよう、消防署の指導を受け、災害などに備えていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者に心身の状態に変化がみられた度に、家族への電話連絡、面会時などの機会を通じて、今後のこちらの対応と予想されるリスクについて話をしている。	○	今後も家族との連携を密にして、スタッフと共に入居者のことを考えていきたい。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の異変に気がついた時は、バイタルチェックを行い、状況に応じてかかりつけ医に連絡し指示を仰ぐとともに、必要に応じて職員同行し医療機関を受診している。(基本は家族が受信)	○	普段から入居者の些細な変化も「いつのこと...」と軽く受け止めず、身体面・精神面から注意して観察するよう常日頃から意識付けている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋を、個別にカルテにファイルしスタッフが内容を把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを付け、一人ひとりの排便を把握している。食材にも気を配っている。また、必要に応じて医師に報告し、下剤等の服薬調整の支持を仰いでいる。	○	食事のメニューの工夫、運動などによる便秘解消への意識づけに努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、皆さんに声をかけている。それぞれの能力に合わせた介助方法で行っている。夜間は、ポリドントにて義歯の消毒を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや肥満、脱水に気を付け、安全にかつ、見た目にも美味しく召し上がっていただける食事の提供に努めている。 また、偏食のある方に対しては、別メニューや、味付に工夫をし考慮している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から帰った時のうがい、手洗いを実施している。 食前・食後・おやつ前には、手伝いうがいを促している。	○ 感染症マニュアルを作り、感染症予防を徹底している。 今後より一層意識を深めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・ふきんは、毎日洗濯・消毒し清潔を心掛けている。 食材は残りのないように、メニューの分量を購入している。	○ 新鮮な食材を使用し調理するよう心掛け、中国産の食材を使わないなど安全面も気を付けている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチを置きくつろげるスペースにしてある。 玄関には、花を生けたり明るく普通の家のような雰囲気になっている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、季節の花を生けたり音楽を流したり、心地よい空間の演出に心掛けている。 トイレ・浴室は清潔であるよう、掃除にも気を使っている。 ホーム内・テラスに季節の花を飾り観賞したり、手入れの好きな方には手入れをしていただいている。	○ 居室においては、自分から今まで使用していたものを持参していただき、入居者それぞれに『私の部屋』という意識を持っていただくよう努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者たちと日常の会話の中でも話題となるようなものを目につくよう置いている(入居者が生けた生け花や外出した時の写真など)。	○ 皆で一緒にする食事や共同作業の洗濯物をたたむ作業においても、互いに助け合う場面が見られるので、大切にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの居室が少しでも自宅に近い雰囲気になるように、入居前に自宅を訪問し、家具などの持ち込みをお願いしている。	○	入居予定の方やその家族にも相談しながら、居室の部屋作りをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	まめに喚起を行い、冷暖房を使用した時には入居者に合わせた温度調整に注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の廊下やトイレには手すりが取り付けられており、浴室は一人ひとりに合った椅子や手すりを設置してある。	○	物理的な空間には制限はあるが、入居者自らの工夫、職員の介助方法の工夫によって、充実した生活ができるよう努めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	普段の生活の中で、失敗した事柄・混乱を招く場面があった時は、その背景を探り、原因追究に努め再発を防ぐ。	○	入居者が分かっている、職員が分からない事柄などは、入居者から職員が学ぶという謙虚な姿勢で対応している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の小さな畑に野菜を作り、成長を楽しんだり、草をひいたり、花に水をやったり、土に触れる喜びを感じて頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input checked="" type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方々の“その人らしさ”が益々輝けるよう、日々の暮らしの中で、「活躍する場所」、「楽しめる場所」、「安心できる場所」としてホームがあるように心掛け、スタッフとの信頼関係が深まるよう、関わり方に気を配っている。